

ABtC紹介

これまでの経緯と今後の取り組みについて

2025.10.24

一般社団法人 自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター



Automotive and Battery
Traceability Center

目次

1 ABtC紹介

2 サービスの普及に向けた取り組み（認証プログラム）

3 今後の展望



一般社団法人 自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター概要



Automotive and Battery
Traceability Center

【法人名】

一般社団法人 自動車・蓄電池トレーサビリティ推進センター
(ABtC = 「エービーシー」と略称)

公益デジタルプラットフォーム
運営事業者の認定取得
(2024年9月)



【事業内容】

自動車・蓄電池のカーボンフットプリント、人権・環境デューデリジェンスに
関わるトレーサビリティサービスの提供

【設立】 2024年2月14日

【所在地】 東京都港区西新橋 1 丁目 1 - 1 日比谷FORT TOWER 10F

【代表理事】

藤原 輝嘉

【受賞など】

自動車・蓄電池のカーボンフットプリントおよびデューデリジェンスのデータ連携サービス関連

経済産業省「ウラノス・エコシステム・プロジェクト制度」先導プロジェクトに選定 

日刊工業新聞社「第54回 日本産業技術大賞」内閣総理大臣賞

自動車LCAプラットフォームプロジェクトが「ウラノス・エコシステム・プロジェクト制度」挑戦プロジェクトに選定

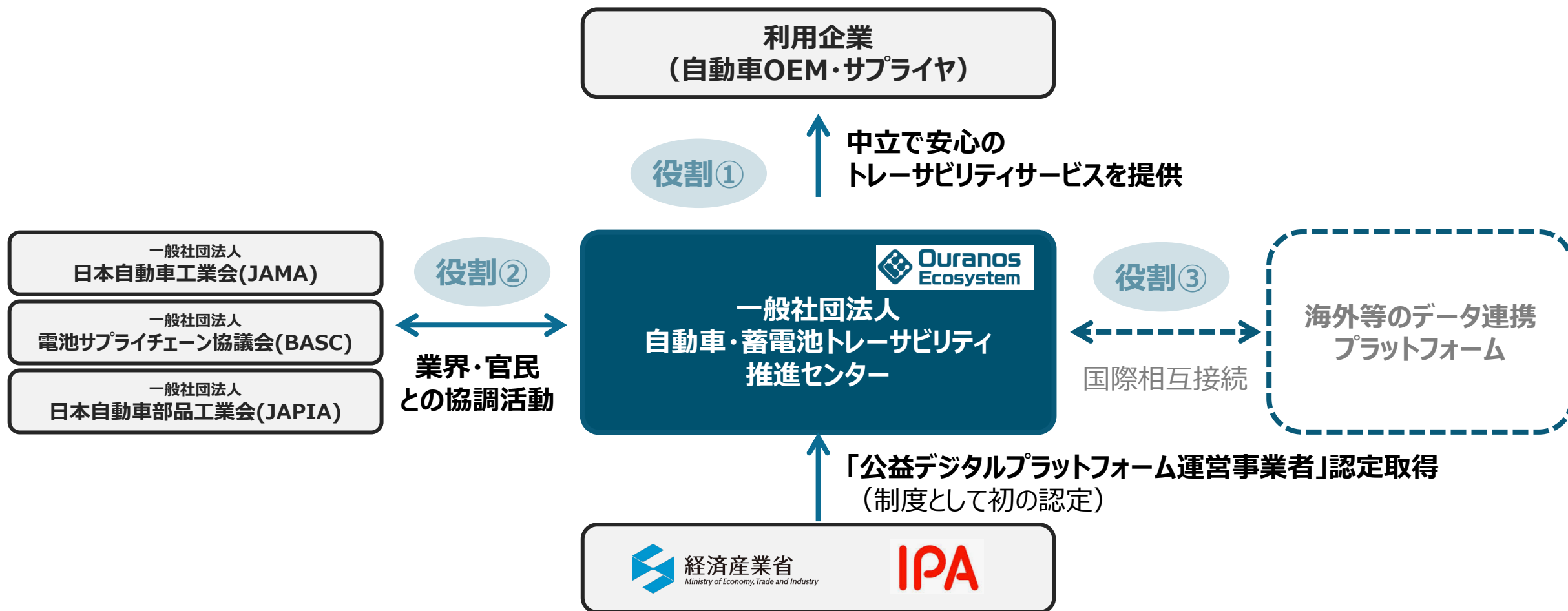


ホームページへのリンク

<https://abtc.or.jp>

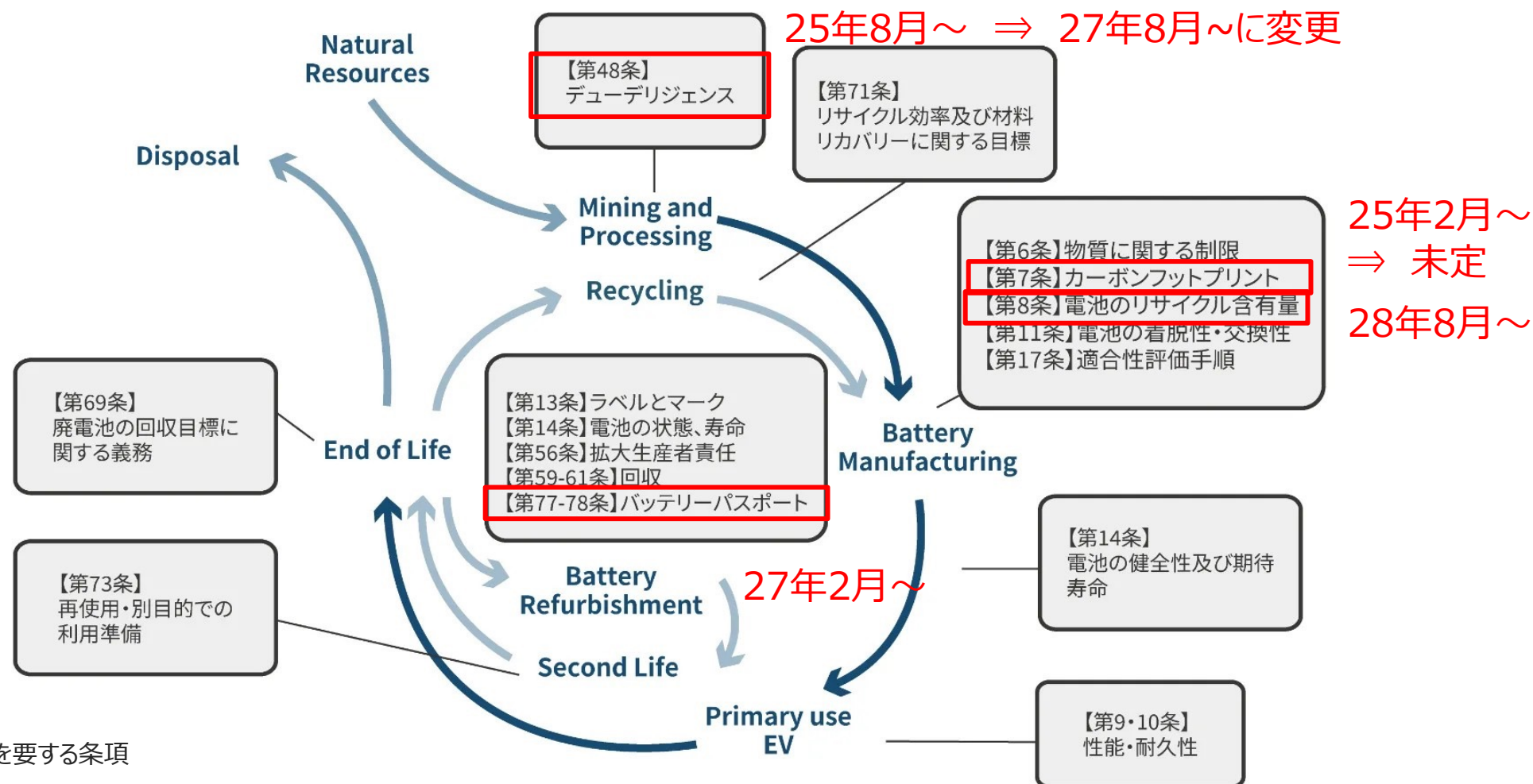
ABtCのミッションと主なステークホルダー

自動車・蓄電池産業のサプライチェーン/バリューチェーン上の企業間で安全・安心にデータ連携を行い、環境規制への対応と社会課題の解決を業界協調で行うことで産業全体の競争力の向上に貢献する。



先行ユースケースの欧州電池規則対応

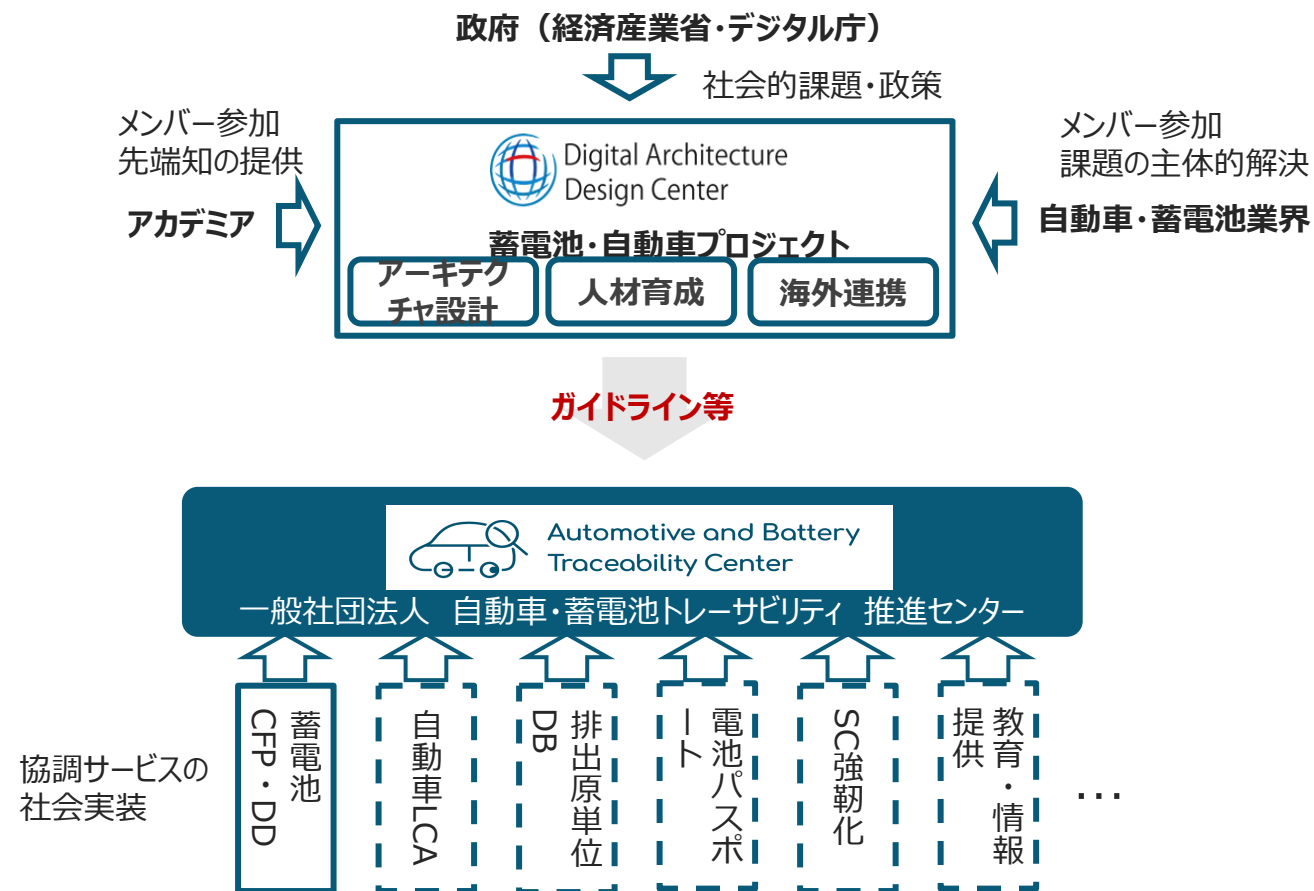
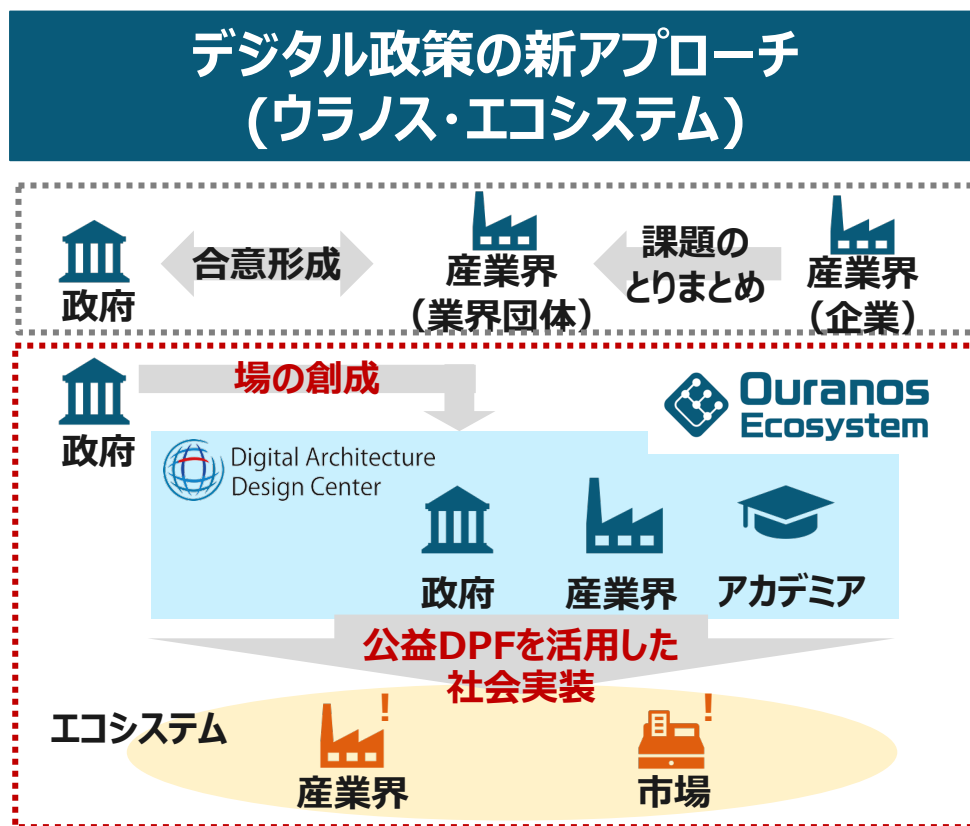
- ・ 欧州で販売する電動車の蓄電池に対してライフサイクル全体にわたるトレーサビリティを要求
- ・ 製品販売の可否に関わること、対象の広さゆえに個社では対応し得ないことから、業界協調で対応を推進



凡例： トレーサビリティを要する条項

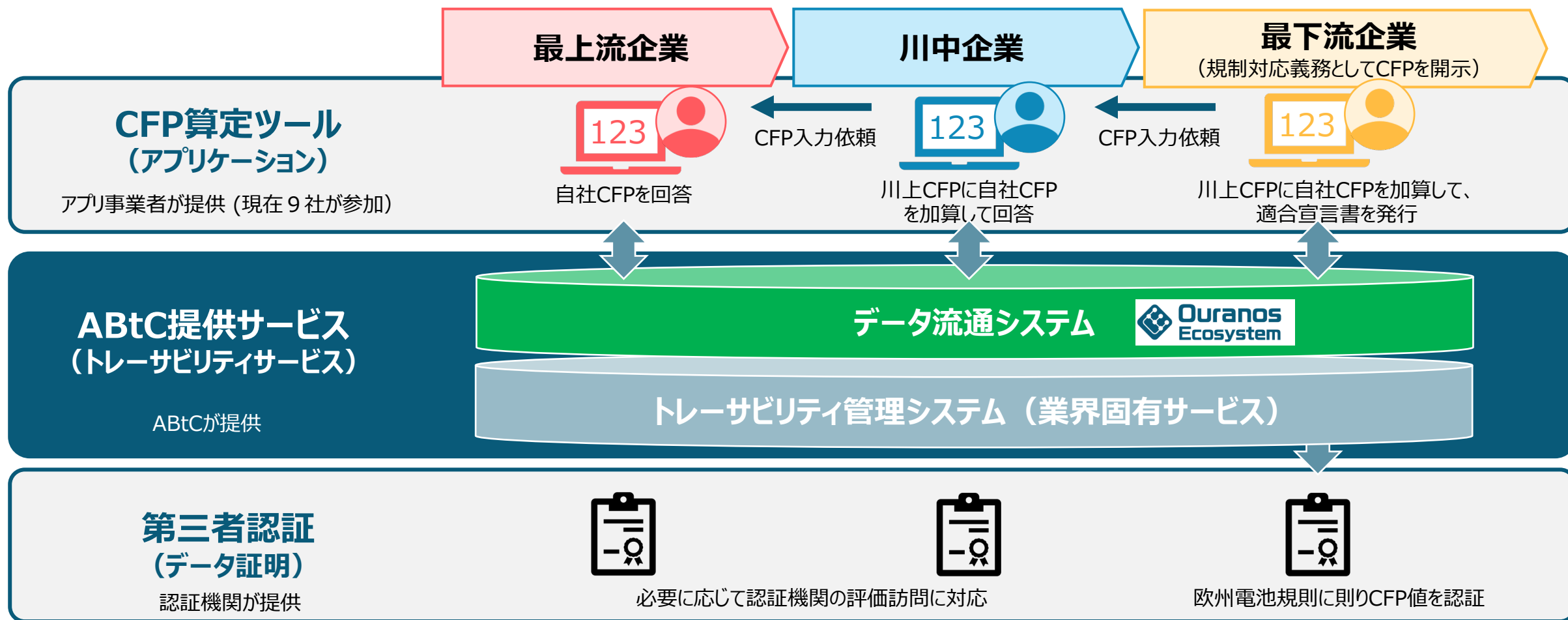
ウラノス・エコシステムにおけるABtCの位置づけ

- ABtCは、DADC「蓄電池・自動車プロジェクト」での議論に参加すると共に、ガイドラインに基づく社会実装を担う。
- DADCとABtCはウラノス・エコシステムの一気通貫での実現に向けて対になる存在である。



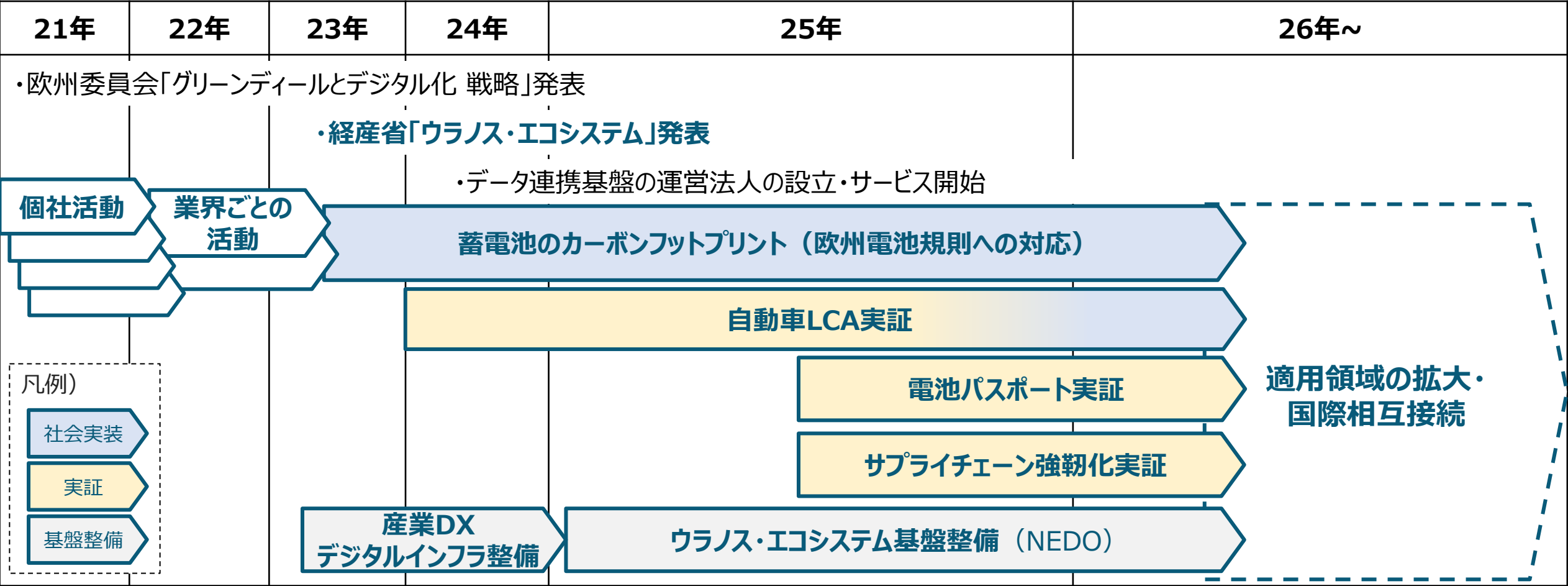
蓄電池カーボンフットプリントのデータ連携サービス

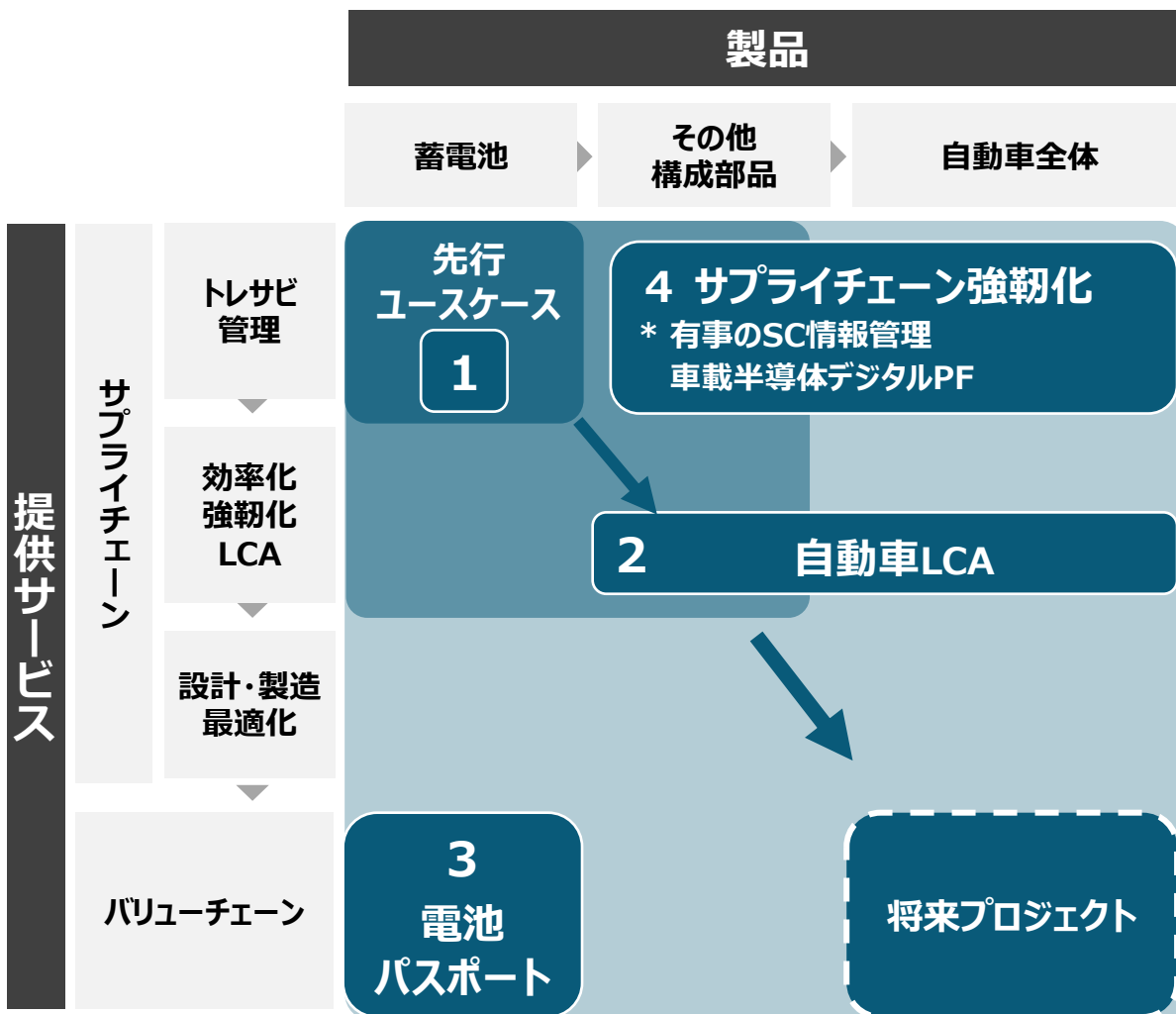
- サプライチェーン上の各社は、OEMからの依頼を起点に「CFP算定ツール」で各社由来のCFP値を登録。
- ABtCの「トレーサビリティサービス」は、**直接の取引先以外にはデータを秘匿しながら、取引関係に沿ってCFP値を集計。**



自動車業界によるウラノス・エコシステムの活用

- 欧州の環境規制（電池規則）によりサプライチェーン企業間でのデータ連携が求められるが、**各社のやり方がバラバラではサプライチェーンが混乱するため、ウラノス・エコシステムの仕組みを活用して業界協調で課題解決を推進。**
- 電池の取り組みに続き、様々な業界共通課題についてウラノス・エコシステムを活用した課題解決の取り組みを推進中。





1 蓄電池のカーボンフットプリント・デューデリジェンス

- ・ 欧州電池規則に対応：カーボンフットプリント条項、デューデリジェンス条項

2 自動車 1 台分のライフサイクル・アセスメント

- ・ 自動車 1 台の材料から廃棄までのライフサイクルにおける環境負荷を定量的に評価するために業界全体としてデータ連携

3 電池パスポート

- ・ 蓄電池に関するモノと情報を紐づけ、様々なサービスを創出する場を提供することで、資源循環社会の実現や新たなバリューチェーンの創造に寄与

4 サプライチェーン強靱化

- ・ 有事のSC情報管理：災害時の影響をサプライチェーン上の各社が連携して迅速に把握し、効率的な在庫管理・生産調整
- ・ 車載半導体デジタルPF：車載半導体における新陳代謝促進や安定調達・BCPに必要な情報の協調領域を定め、データPF化で業界間を繋ぐ

9 業界横断のデータ連携基盤

- ・ ユースケース起点でウラノス・エコシステムの基盤をシンプル・実用的に整備

目次

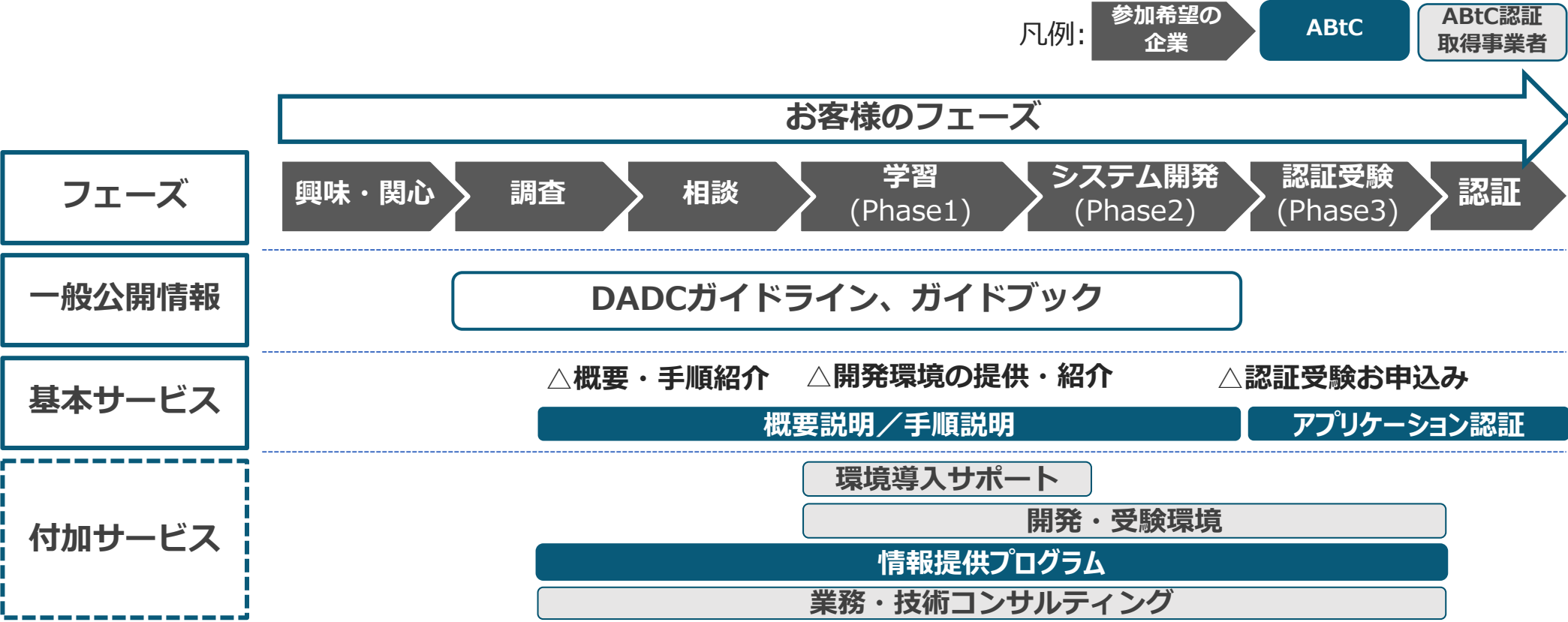
1 ABtC紹介

2 サービスの普及に向けた取り組み（認証プログラム）

3 今後の展望



- ・ ウラノス・エコシステムのバックグラウンド理解に始まり、認証においてはシステムとしての適格性の確認を行う。
- ・ 事業者のニーズに応じて支援を行う付加サービスも整備している。



- ABtCのデータ基盤と連携するCFP算定アプリと、ABtCのサービスを理解し業務支援を行う事業者を認証するプログラム。
- これにより利用者は、一定の品質が担保されたアプリや、認証事業者による適切な業務支援を受けることができる。

A.アプリケーション認証（CFP算定）

ガイドラインに従って基盤上で安全かつ安定して相互接続できることを認証

B1.アプリケーション開発事業者認証

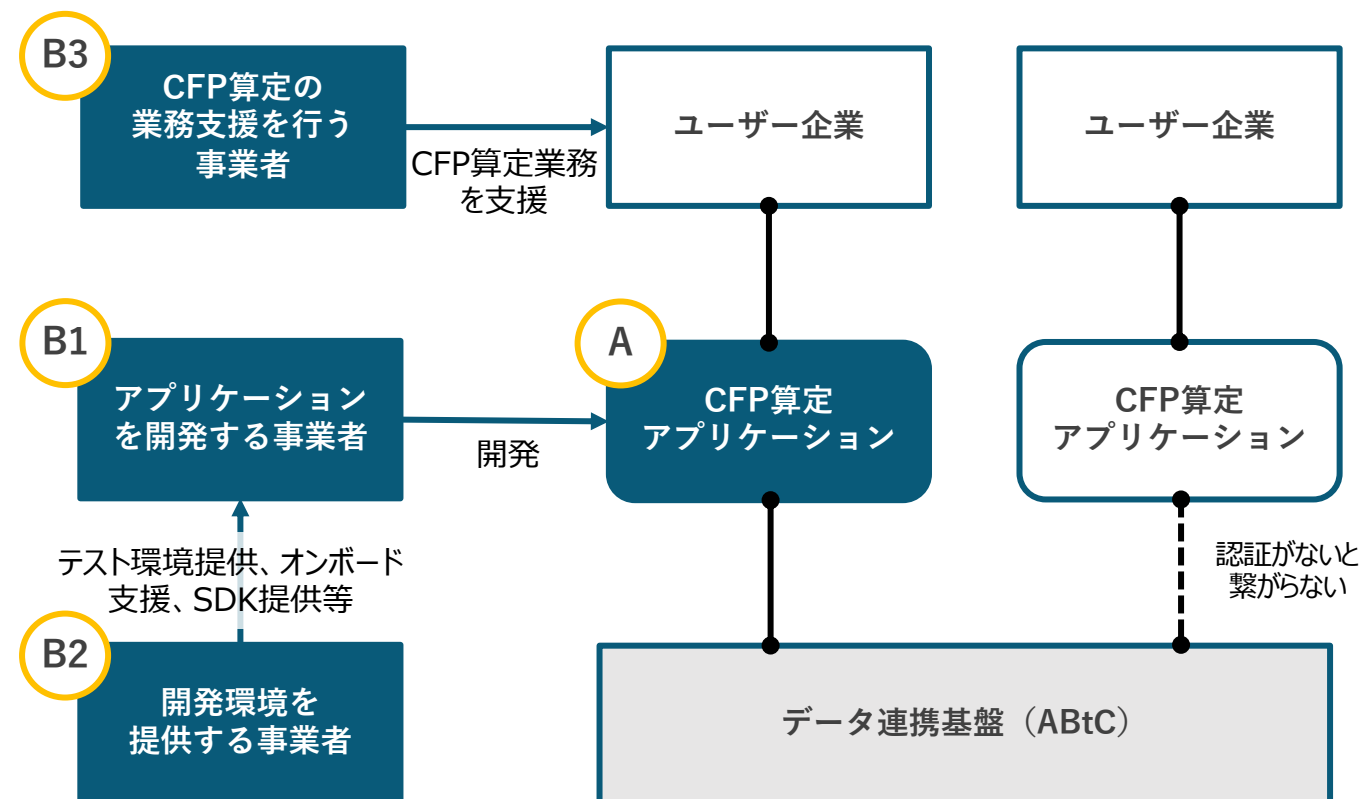
基盤との接続に必要なアプリケーションを開発できる事業者であることを認証

B2.業務支援事業者認証

トレサビサービス利用者のCFP算定業務を支援できる事業者であることを認証

B3.アプリケーション開発支援事業者認証

テスト環境の提供やデータ連携基盤に接続するためのオンボード支援、SDK提供ができる事業者であることを認証



- 多様なバックグラウンドの方に参加いただくには、最初の敷居を下げる必要があり、コンテンツ整備が必要である。
- 実証を次の社会実装に繋げるには、入り口の段階で方針や出口イメージを議論をする場を設ける必要がある。
- 参加者が未体験の技術・取り組みにおいては、コスト面で躊躇しがち。コスト面の敷居を下げる取り組みが必要である。

目次

1 ABtC紹介

2 サービスの普及に向けた取り組み（認証プログラム）

3 今後の展望



オープンデータスペース（ODS）のSDK整備

- NEDOが推進する「ウラノス・エコシステムに資するデータスペース基盤整備・普及促進事業」（A事業）において、SDK整備やオンボーディングアセット整備等の取り組みが進められている。

開発者向けドキュメンテーション・SDK整備及び開発者オープンコミュニティ立ち上げに関する検討・準備

ODS SDK for Onboardingの開発	ODS にオンボーディングする参加者及びその検討を行う者が 自身で用意した環境で簡単にデプロイ し、ODS-RAM で定める一連の実装プロトコルを最小の手順で実行できる SDK を開発する。
ODSドキュメンテーションの整備及び開発環境の強化に係る調査及びソフト ウェア・ツール開発	ODS開発者向けの ドキュメンテーション整備並びに開発環境を充実 するための調査及び開発を実施する。
開発者向けオープンコミュニティ立ち上げに係る調査及び企画並びにODSハッカソン「biotope（仮称）」の企画及び実施	開発者向けオープンコミュニティ立ち上げ に係る調査及び企画を実施するとともに、ODS ハッカソン 「biotope(仮称)」を企画し実施する。

データスペース参加者に向けたナレッジスタック・オンボーディングアセット整備

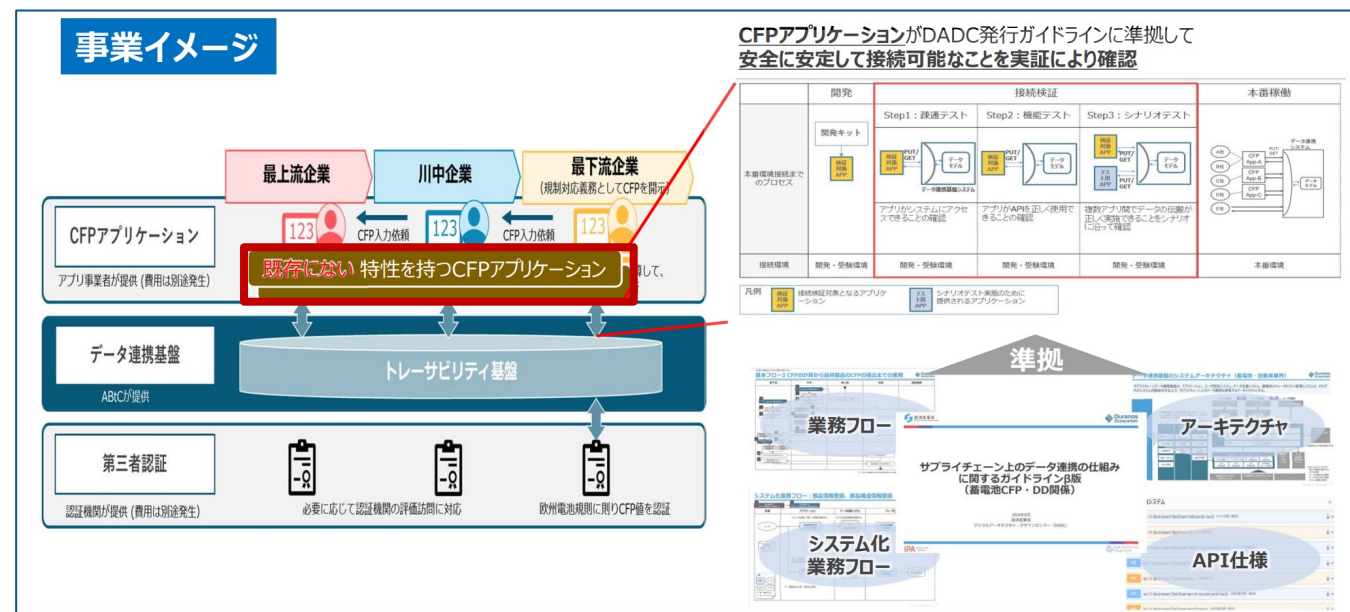
データスペース参加者に向けたODS入門アセット・ナレッジスタックの作成	アウトリーチ活動の一環として今後ODSへオンボーディングする参加者及びその検討を行う者に向けて、 入門の手引きを行うためのナレッジスタック及びオンボーディングアセットの開発、作成 を実施する。
-------------------------------------	---

- NEDOが推進する「蓄電池トレーサビリティ分野のカーボンフットプリント情報の流通促進のための高度化事業」（B事業）にてご支援をいただきつつ、脱炭素を目指すためのCFPの見える化、ウラノス・エコシステムの下、データ連携の普及を目指す。

これまで5つのアプリケーション事業者に参加をいただいている。

さらなる普及を目指し、これまでないアプローチの事業者の参加を模索している。

多様な協力事業者との取り組みを重ねながら、より多くの企業（アプリケーションの提供者・利用者の双方）にとって利用しやすい仕組みを整備していく。



蓄電池トレーサビリティ分野のカーボンフットプリント情報の流通促進のための高度化事業「[研究テーマ毎の実施内容](#)」

ABtCはこれまで認証プログラムや、オンボーディング支援サービスの整備を進めてきた。

現在は、上記の運営や改善に加え、様々な開発事業者・サポート事業者に参画いただける環境の整備に取り組んでいる。

ABtCはこれからユースケース拡張に入るところで、開発・検証環境をどのようにリーズナブルに広げていくかは、我々自身の課題でもある。



Automotive and Battery Traceability Center

